

星座や恒星名のカタカナ発音について 「ペガススなのか？ペガサスなのか？」

春日 了（りょうちゃんプラネタリウム館長）

概要

星座や1等星の名前は、近年、英語発音の影響もあり従来のラテン語片仮名読み、一辺倒ではなくなりつつある。ヨーロッパの言語も含めて発音を抑え、今後の指針にしたいと思ひ発音について言及してみた。

ペガスス？ペガサス？

一昨年、あるプラネタリウム研究会で、「ペガススなのかペガサスなのか？」という疑問を持っているという発言を聞いた。そういえば、プラネタリウムでは「ペガサスともいいますが、星の方ではペガススという名になっています」という説明を聞くことが多い。星座の日本式呼び名は決定しているものの、国際化や21世紀を迎えた潮流の中で業界でも考慮の時期に来ているのではなからうか？

バナナアイス？

実際に、身近に起こった英語の発音の問題である。アメリカ人と日本人の英語の会話だ。「キミハ ナンノアイスクリーム、タベルノ？」「私はバニラよ」「エッ、バナナ？」「ノー、バニラ、あっ、ヴァニラ」「バナナ ナノネ？」「違う、私のはヴァニラ」「ア-ア、ヴァネーラ！」笑い話のようだが実際に巷ではよくある話だ。あなたもこのケースに遭遇するかもしれない。

日本人は、BとVの発音の違いこそが問題だと信じているが、実際には、イントネーションの差の方が遥かに大きいことに問題がある。英語ではストレスとって、アクセントが置かれる箇所は長く、強く、高く発音される。それ以外のところは弱く、短く、低く、曖昧に過ごされる。これを体感してないから、日本人は英語のヒアリングがわからないのだ。Vanillaの問題は、第一に中程の i にストレスが来て、長く強く高くなることと、第二に、英語の短母音「i」の発音は日本語の「イ」の発音と同じではなく、イとエの中間より幾分エに近い音だということだ。

この原稿の信憑性は？

原稿を書いている私自身は、ドイツとイタリアに留学し、外国語はイタリア語、ルーマニア語、英語、ドイツ語の順に発想し、フランス語も幾分話し、文法知識は、スペイン語、スウェーデン語、ロシア語を学んだ。日本語以外に、時には3か国語で夢を見ることもある。インド哲学も専攻したので、古代インドのパーリ語も学んだ。

私はプラネタリウム経営の他、職業として声楽家もしているのでヨーロッパの舞台でも歌い、発音については各国語のフォネティック（舌と唇の正確な位置での発音）を学んでいるので、カタカナ発音は大変気になるところである。

学名という奴

星座の話に戻ると、何故に「座」がついているかはともかく、おうし、しし、うさぎ、さそり、ふたご、てんびん、など日本にある概念には日本語の星座名があてられているので混乱は起こらないが、外国起源の学名が困り物なのである。それがカタカナ発音になりこれを巡って英語発音が混入してきて混乱がある。

ペガススがいい例だ。翼の生えた馬という概念がないので、Pegasusをペガススと片仮名読みで発音していた。近年、英語での発音が、ペガサスだということで、その影響がプラネタリウムにも出ている例である。Pegasusは英語では、最初のeにストレスがあるので、強調され、他のaとuは逆に弱くいい加減な母音として発音される。あえて片仮名にするなら、ペーグサスで最後のスはsの子音だけである。つまり、ペガサスという片仮名の音も英語の雰囲気をよく伝えているとはいいがたい。

日本語発音の癖

ストレスの長、強、高を取り入れずに全ての音に同じリズムを与え、わずかな音の高低アクセントだけで単語の発音を区別する日本語で、ペガススかペガサスかとやっきになり、スが正し

いかさが正しいかと議論してもあまり意味がない。英語は日本語表記の片仮名では捕らえられない長、強、高の立体的なアクセントをもっているからである。

英語万能か？

日本では外国といえばアメリカ、外人はアメリカ人という時代はそろそろ終わりかけているが、それでもまだまだ英語が世界で通じる万能語だと信じている人は多い。ヨーロッパには各国にスタイルがあり、英語を話す若者は日本の東京よりも多いだろうが、それは大都会の話で、一般的に欧州では自国語を話すのが当たり前だ。イタリアでは何と云ってイタリア語を話していて、英語がわかる人は少ないし、おまけに、各地方の方言を誇りとして喋り、標準イタリア語は、二の次である。これは他のヨーロッパでもほぼ同じだろう。

困ったことかというか嬉しいことかというか、星座の名や天文学は他起源や例外はあれ、ヨーロッパ中心にその発展を伝えてきた。だから、欧州の言葉、特に、イタリア語に注意を払わねばならない。イタリア語はラテン語系の言葉だからだ。

千葉さんの名は？

千葉さんは、外国に行くと、Chibaと名前を書くだろう。しかし、それがどう発音されるかはお国次第だ。イタリアではChibaはキーバと読まれるし、フランスでは、シバと発音されるし、英語圏でも場所によってはチャイブと読まれるかもしれない。青木功というゴルフの選手がアメリカで、Isao Aokiをアイセーオ・エオウキと発音されていて、結構上手いとわかったら日本の音に近いイサーオウ・エオウキと訂正されたのを覚えている。

最近ではカラオケが日本だけでなく欧米に進出しているが、アメリカ人は何と発音しているのだろうか？caraoke との表記に彼らは、キャレイオーキーとの発音をする人が多い。以上の例は逆に考えれば、我々日本人も本来の外来語を自分たちの発音癖で相当に違って読んでいるということの証拠である。

ヨーロッパは？

欧州統合を目指して共通貨幣のユーロが開始

されて便利になったが、このeuroも各国で呼び名が違う。英語ではユーロ、イタリアではエウロ、ドイツではオイロ、フランスでは英語に近いがより鋭く、イーゴのように聞こえる。ユーロといえばエウロパ！これも、イタリア語ではエウローパ、ドイツではオイローパ、英語でヨーロッパである。学名はラテン語が多いのでイタリア語の発音知識があると何かと便利で国際的に通じることが多いと思う。

英語の発音は困難！

英語は日本では第一外国語として取り上げているが、発音の困難さは語学中トップクラスだということをご存知だろうか？欧州各国語の発音は、決まりを覚えてしまえば比較的簡単だ。英語の発音が複雑で音から活字を想像しにくいのは、昔、イギリスが200年ほどフランスの統治下にあり公用語がすべてフランス語になった歴史が原因と思われる。その時、英語に入ってきたフランス語が英語の中で独特の音を持つようになり変化したからだ。

欧州は陸続きだからどの言語も三分の一は国際的に共用している。発音が自国風になっているだけで、文字を見たら分かり合うのだ。日本人はそうはいかないから大変だが、星を解説する者はイタリア語の発音くらいは一度、目を通しておくべきだろう。英語が世界の共通語だと信じて、星座の英語の発音を気にしすぎたら、オリジナルの音からずれる一方になりかねない。

イタリア語とラテン語

プラネタリウムで、Schiaparelliをスキヤパレリと聞いたことが多いが、イタリア人の名だからせめて、スキヤパレリと呼んであげたい。Giottoもジオットでなくジョットと発音してあげたい。有名作曲家で、Corelliのことを音楽業界で10年前まで、コレルリと書き読んでいたのは今では笑い話である。

私の名前、春日をローマ字でKasugaと書いたら、北イタリアではカズーガと呼ばれしまうし、フランスではカスューガと言われてしまう。日本の音に近く読んで欲しいので、私は、Kassgaと常とsをふたつ書く。そうすればSを濁ったりはしない。日本語で「きんかくじ」と「きんかくし」では音からの想像が全く違うように、ふとした音が外国で妙な響きにならないとも限ら

ない。

刑事コロンボの映画を見ながら、この刑事の名は、大航海時代の英雄コロンブスの名前だと気がついたら大当たりである。ラテン語でColomboやPegasoは、主格で使うときには、音が変わり（格変化して）oがusになる。こんなことを知るだけで、ラテン語では固有名詞も語尾の音さえ変わるのかとわかる。イタリア人なら全てが常識のことなのだが。

実際、ルーマニアで、私の名、春日をカスゴーと呼ばれて、「えっ？」と言ったら、呼びかけの時（呼格）にはアがオになることがあったといわれた。これは、インド古代のパーリ語やサンスクリット語では当然で実例として、呼びかけの音Buddhaは、主語になるとBuddhoとなり格変化を見せる。仏教の仏陀のことで、「悟った人」「目覚めた人」の意味である。

古典語は男性名詞、女性名詞、単数、複数に6～8個の格変化が生じるので固有名詞や人名でも音が変わるのである。いつの時代にか前置詞などの発達により格変化はなくなり文法も簡素化されてきた。英語は、その最たるものである。

英語の呪縛

ペガサスやアークトゥースという英語音は嫌いで、星座や星の名前はペガサス、アークトゥールスでなければと思っているラテン語usの語尾好きな人でも、Venusをヴェーヌスとは読まずにビーナスと発音し、Mercuryをメルクーリーと言わずにマーキュリーと読んでいて、Jupiterをまさかイューピテルとは読まずにジュピターと発音していることだろう。これらの例は英語が知らず知らずに頭に入っている証拠で、ペガサスは敵だがヴィーナスは見方だという不可思議が生じてしまう。日本では英語の呪縛は必ずあるものだ。

英語発音の問題点

天文用語がラテン語中心であるのに、それをラテンロマンス語系でない英語で読むこと自体が元もとの発音から離れてゆくことを認めない。例を挙げれば、iをアイと二重母音に読んだりaを強調のエイと、これまた二重母音に読み、ラテン語のiをイ、aをアと読む音から遠ざける癖が英語自体にあること。また、rを巻き舌で発音しないで口の中でそり舌で曖昧母音の

ように英語、米語独特に発音するのも問題だ。オペラでも有名なCarmenは、原音に近いカルメンではなくカーメンまたは、カームンという発音になってしまう。

星に例をとれば、超有名な問題の発音、Arcturusについても同じで、アルクトールスではなく、英語ではアークトゥースやアークチュースといった感じである。アポロの妹のArtemisは、もはやアルテミスではなくアーティミスとなる。

日本の誰もがオリオン座として疑いすらしなはずのOrionも「ウライアン」というとんでもない発音になり、日本人どころかヨーロッパ人さえついてゆけない感じで、英語ではアーティミスに愛されたウライアンという音感になる。女性友人に多い名前のDianaも私はディアナという音感で馴染んでいるが、英語ならダイアナで、こちらはむしろ日本人に親しまれている。数年前にテレビ番組で、日本人は外国語の発音が変わるという話で、「Hercules（ハーキュリーズ）のこと、ヘルクレスだって変だよ」と英語で発言するアメリカ人がいたが、英語の方がよっぽど変だよ！日本の発音の方がオリジナルに近い時もある。

英語の利点

東南アジアや国際会議など多国籍が集まる機会にはやはり英語が中心となる。世界的人口比率で中国語を共通使用するという話にはならない。多国籍にわたり英語が知的に話されているせいでもあり、英語は文法が簡単であるというのが強力な理由ともいえる。

一般人どうし、専門家どうしが分かり合うために、英語を使うことが多い。また、いったん母国語を話させると流暢になりすぎて止まらなくなるので第3の言葉である英語をもってくるというのも理由になるかもしれない。とにかく英語を話すのは意思を伝達するためである。

天文関係の発音

英語の発音はむしろヨーロッパのラテン語から離れて独特な音になっている場合が多いから、英語を話す時でも、天文関係の言葉の発音を無理に英語に合わせる必要はないと思う。ローマ字発音の方がラテン語に近い時もある。学名やラテン語の字づらを思い起こして発音すれば、英語圏の人でもそれとわかるはずである。

イタリア語発音の重要性

前述したが、ラテン語はイタリア語の先祖だから、発音はイタリア語を少しかじればよい。そうすればイタリア料理を口にし、オペラに行くときでも含蓄が深くなり、星々や学者の名前の発音も素晴らしくなることだろう。

プラネタリウム解説員として

ほとんどの場合、日本語で日本人に天文学を解説するのだが、使用するのはラテン語やその他の外来語であり、長年、日本人一般に馴染んできた外来語ではなく、あくまで、星座や星や伝説の名前を片仮名発音で伝えているに過ぎない。

しかし、現在はすでに21世紀であり、国際交流も盛んなので、暇な時に、よく出てくる外国語のつづりを眺めて発音を確かめてみてはどうだろうか？特に若い解説員は、今後、英語やその他の外国語をすでに話す日本人客も想定しておかなければいけない。使用するのはごく限られた頻度の外国語の発音だけなので、さほど困難ではない作業である。

ペガサスか？ペガサスか？の結論

片仮名では、ペガサスだと決められているが、それは、あくまで、日本での音だ。英語風のペガサスという片仮名が一般人に定着しつつある中で「プラネタリウムではペガサスなの」と言ったら英語に慣れた人には変な発音だと思われる。

ペガサスのように、一般にすでにほかの媒体で知れ渡っているような特例については、面倒でも「英語では、ペーガスと発音し、ラテン語の学名はペガスと、日本では発音しています」というふうに追加の説明をした方が丁寧だと思う。解説員も迷うほどの問題については、片仮名発音だけで押し切るのは誤解が生じるのを避けられない。最終的には解説者自身の発音への関心が問題となる。

どのように発音を心がけるか

エウロパもそうで、イタリア語に準じて「エウローパ」と発音してあげたい。欧州大陸の名だから彼らにとっては大事なことだろう。ただし、前述のごとく、ドイツではオイローパ、フランスでは、片仮名では表現できないが、イウホーパのような音。英語なら、ユーラブとなる。

発音については、どこまで手を広げるかは個人の関心と自由であるが、抑えて欲しいのは各国で、さまざまな発音があるということ。日本は日本語訛り、英語圏は英語訛り、ドイツもドイツ語訛りで、フランスもフランス語訛りである。そのようなことを頭に置いて発音を考え、少なくとも英語発音が本式であるという呪縛にはまらないようにして欲しい！英語はむしろもとの発音から離れてしまった場合が多いから注意が必要だ。

オリジナルに近い発音で固有名詞を読むことは、少し努力すればそれ程、困難なことではない。

「総合的な学習」を支援する天文施設へのアンケート

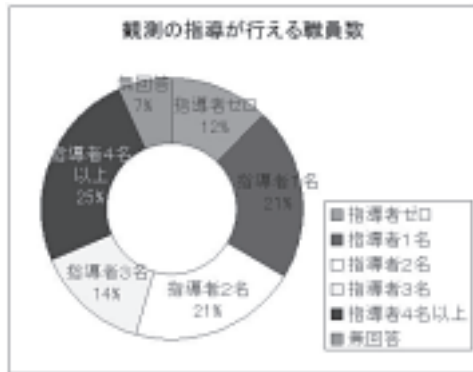
(集計) 山田陽志郎 (横浜こども科学館)

はじめに

日本プラネタリウム協会では、『総合的な学習』への支援の実態調査のため、プラネタリウム、天体望遠鏡、展示などを公開している施設（このアンケートでは天文施設とよびます）に対し、アンケート調査を企画し、2003年1月に実施いたしました（しめきり2003年1月31日）。公開天文台202施設、プラネタリウムを持つ施設289施設、計491施設にアンケートへの協力をお願いし、そのうちの52.7%、259施設から回答を得ることができました。望遠鏡やプラネタリウムをもつ施設において、望遠鏡の操作等の指導者ゼロが12%、1名以下が全体の1/3にのぼっています。講師派遣ができず、昼間太陽すら見せることができない、また、天文分野の助言指導ができない、と回答している施設が少なからず存在するのも、「人の問題」とは切り離せないようです。以下はその集計結果です。

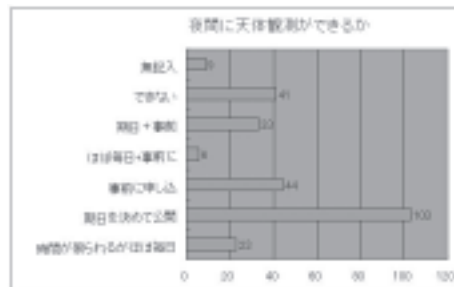
(1) 天体望遠鏡について

■望遠鏡の操作や、観測の方法を解説できる人が何人いますか？

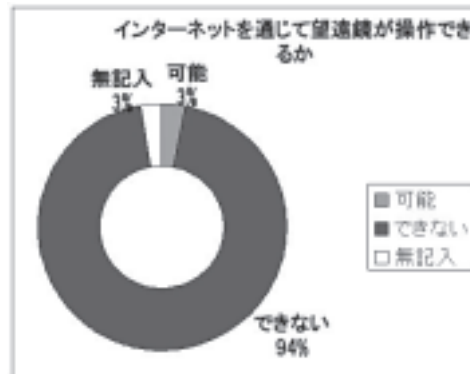


非常勤・委託（6%、15施設）を含む。9%、24施設でボランティア（数名～数十名）によるサポートがある。

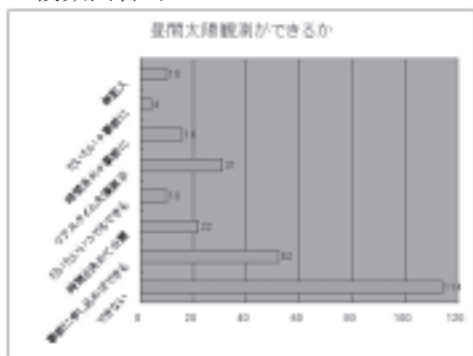
■夜間の天体観測ができますか？ 複数回答可



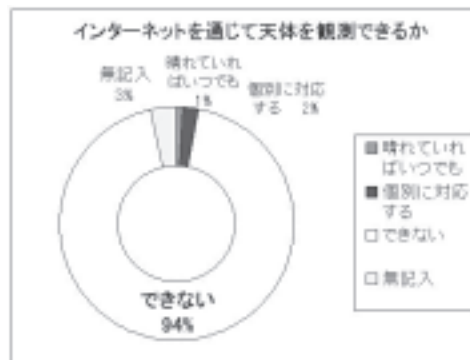
■インターネットを通じて、学校や家庭から天体を観察することはできますか？



■貴施設で、昼間太陽が観察できますか？ 複数回答可

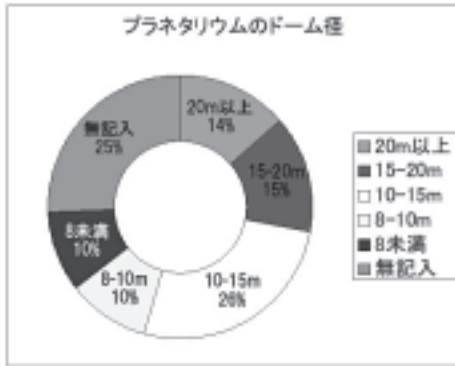


■児童・生徒がインターネットを通じて操作することは可能ですか？

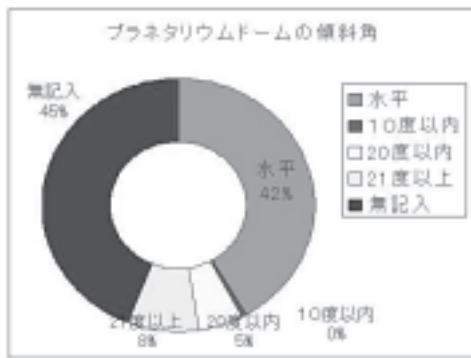


(2) プラネタリウムについて

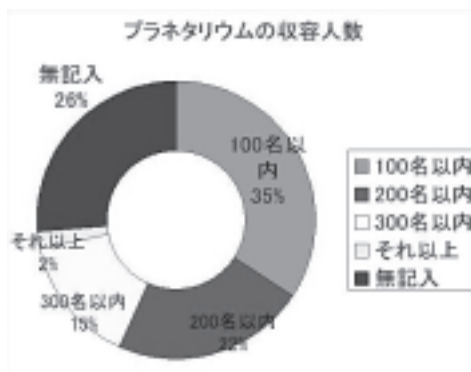
ドームの直径



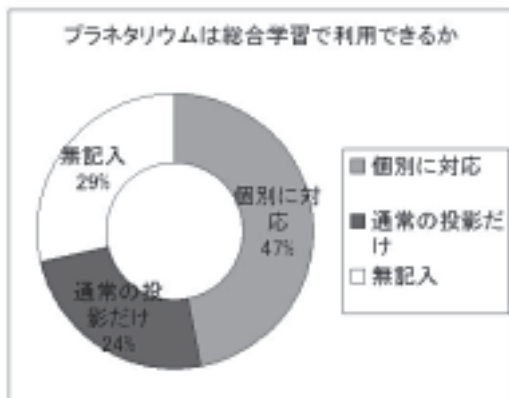
ドームの傾斜



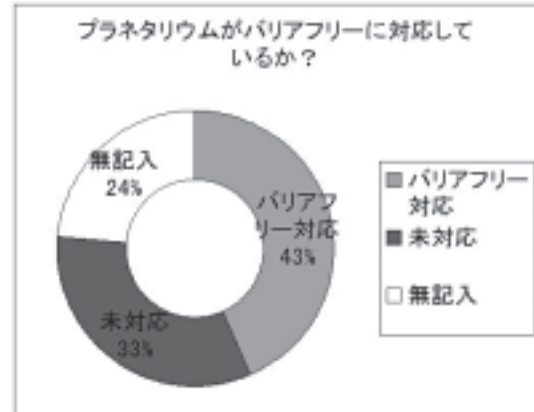
客席数



■総合的な学習で利用できますか？

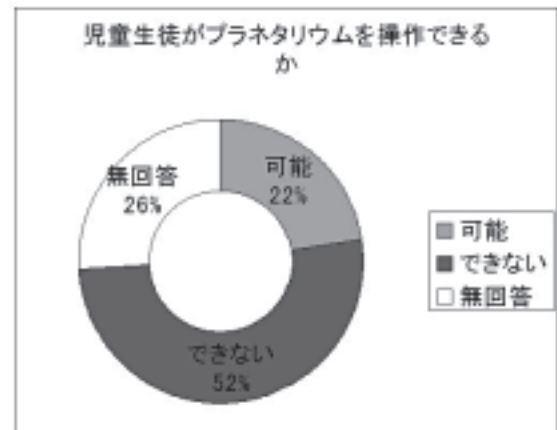


■バリアフリーになっていますか？



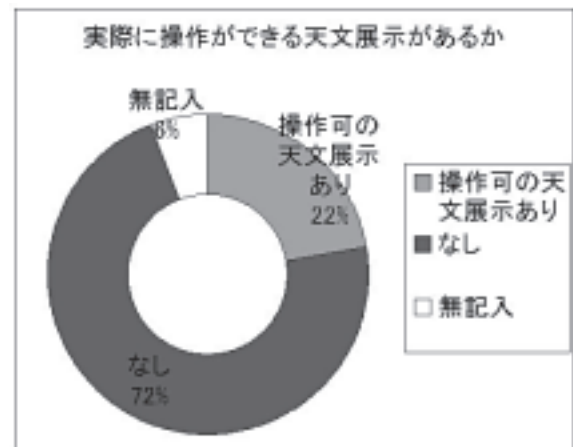
「なっている」という回答のほとんどが車イス対応です。

■児童・生徒がプラネタリウムを操作することは可能ですか？



(3) 天文関係の展示について

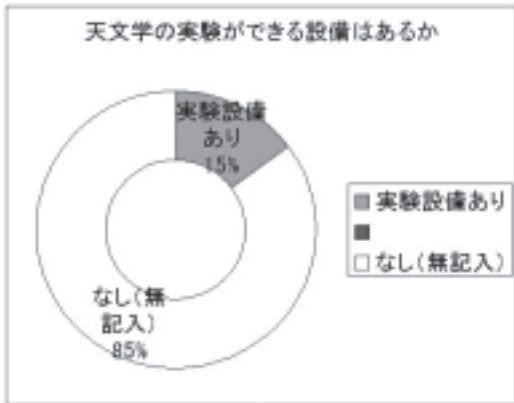
■操作性のある展示物がありますか？
(開始ボタンを押すだけのものは含まない)



上記グラフにパソコン展示は含まず。

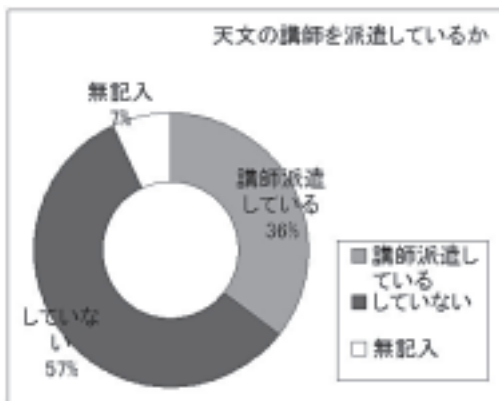
■天文分野の実験ができますか？

複数回答可

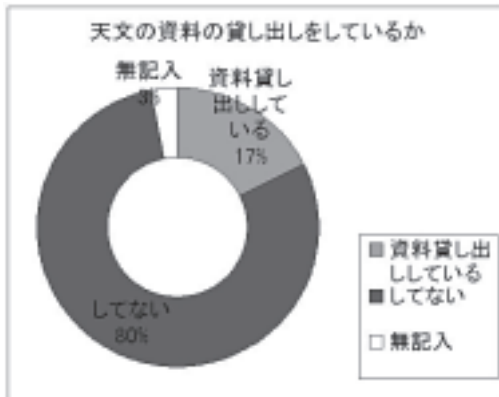


(4) 天文分野の他

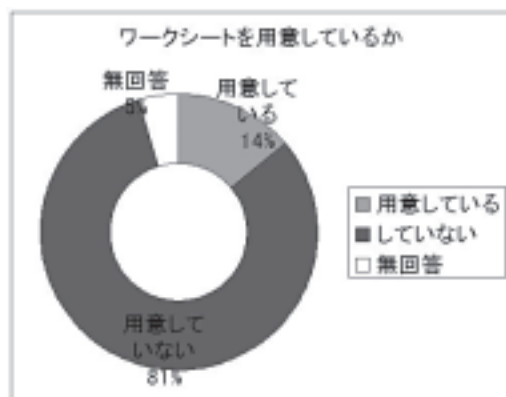
■講師派遣をしていますか？



■資料の貸し出しをしていますか？

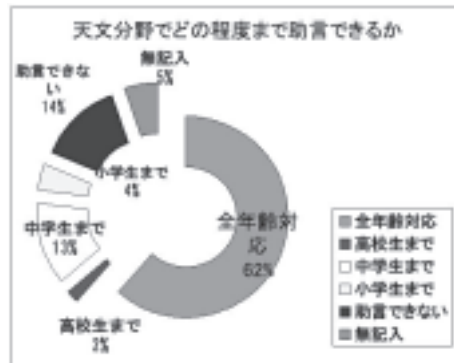


■ワークシート(クイズ形式のプリント)を用意していますか？



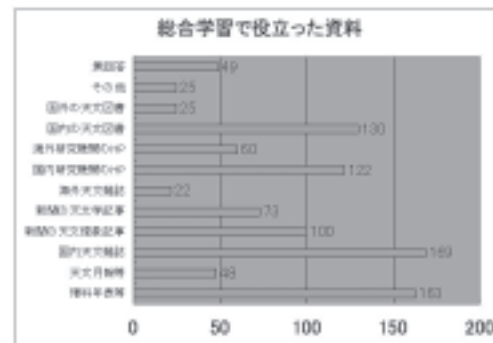
(5)天文分野の助言・指導が行える担当者

■助言、指導について、どの層に対応していますか？



■総合的な学習で、どのような知識・経験・資料が役に立ちましたか？

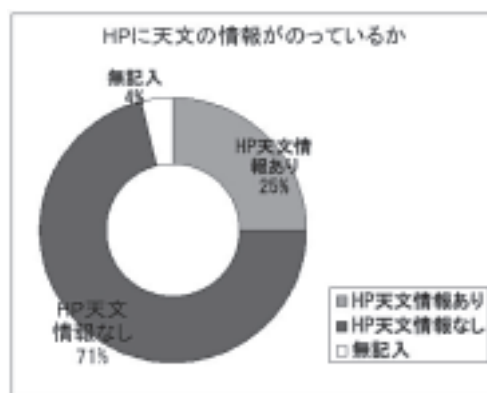
複数回答可



天文月報等とあるのは国内学会誌。理科年表等とあるのは理科年表の天文分野・天文年鑑・観測年表など。(天文シミュレーションソフトが6件、PAONETが3件)

(6) ホームページ

■貴天文施設の案内以外に、ホームページで天文情報を公開していますか？



集計内容はJPSホームページで公開しています。集計にあたって、白井市文化センタープラネタリウムの方々、横浜こども科学館の同僚職員の支援があり、とても助かりました。感謝いたします。山田陽志郎 (yamada@ysc.go.jp)